

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年8月18日

**【評価実施概要】**

事業所番号	4070001401		
法人名	有限会社 セブレコーポレーション		
事業所名	グループホーム おおさかの里		
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡みやこ町犀川大坂646-1番地 (電話)0930-42-0801		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	平成20年8月28日

**【情報提供票より】(平成20年7月14日事業所記入)**

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤	人, 常勤換算 5.31

**(2) 建物概要**

建物形態	併設 / <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<del>無</del>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( <del>無</del> ) (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

**(4) 利用者の概要(7月14日現在)**

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	吉永病院 小波瀬病院 よしなが歯科
---------	-------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

山間の自然環境に恵まれたグループホームおおさかの里である。広い敷地に隣接した畑には、利用者が丹精込めて作った四季折々の作物があり、利用者の楽しみの一つである。「のんびり・ゆっくり・みんなで」という理念を掲げ、オーナー、管理者、職員が一体となり、利用者の家族として、一日一日を大切に過ごしている。職員の中で4人の看護師がいるため、健康管理面も安心である。また、ターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族、医療機関と常に話し合い、安全で健康に暮らせるグループホームを目指している。開設して2年目であるが、オーナーの介護に対する熱い思いを職員が共有し、利用者職員と一緒にゲームや習字、食事等をしている様子は思わず微笑みたくなる光景である。地域との交流も活発で、今後が期待されるグループホームおおさかの里である。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は7件あったがオーナー、管理者、職員の頑張りで半減している。今後は「地域密着型サービスとしての理念の作成」・「職員を育てる取組」・「市町村との協働」などを推進し、介護サービスの質の向上と質の確保を目指していくことが望まれる。
重点項目	自己評価表を職員全員に配布し、一人ひとりが自己評価表を作成し、職員会議で意見を出し合い管理者が取りまとめ、自己評価を全員で作成している。職員は外部評価の意義を良く理解し、実践している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	会議は利用者家族、区長、老人会、民生委員、町職員、オーナー、管理者、職員で構成し、ホームからは状況報告やお知らせ、案内などを説明し、参加者からは質問や要望等が出され、双方向的な会議として、活発な意見交換会が来ている。今後は会議の内容をさらに充実して、介護サービス事業に反映できる体制が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族は必ず月に一回は支払を兼ねて来訪している。その時に利用者の心身の状況を説明している。また、行事予定や記念写真などで毎日の利用者の暮らしぶりを説明し、家族からは要望や相談ごとを受けている。日常生活の中で、利用者の状態の変化に応じて家族に連絡し、話し合っって介護サービスの見直しなど実施している。また、運営推進会議の後に家族会を開催し、職員を含め利用者や家族との意見交換会を開催している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校の体験学習や保育園児たちの来訪、ホーム主催の敬老会への招待など活発に交流が行われている。オーナーは地元出身であり、ホーム前には職員の住居があるため地域の情報が得やすく、積極的に行事等に参加し、地域住民との信頼関係も少しずつ出来ている。今後は町内会の承認を得て、町内会や敬老会等に加入していくことが望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本方針は揭示しているが「のんびり、ゆっくり、みんなで」という理念の揭示はない。		分かりやすく、親しみやすい理念であるので、地域の中でその人らしく暮らしていくという具体的な言葉で理念の中に明示していくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解し、毎朝唱和し日々の中で実践に基づいたものになるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	オーナーが地元出身であり、職員の一人はホームの前に住んでいるため、近所との交流も盛んで、採りたての野菜や果物の差し入れがあり、ホームの畑で採れた作物を持って帰ってもらうなど、地域の中に溶け込んでいる。また、小学生の体験学習や保育園児の訪問も定期的に行なわれている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に外部評価の意義を説明し理解を得て、自己評価表を全職員に配布し、一人ひとりが自己評価を行い、職員会議を開催し、意見を出し合い、オーナー、管理者が意見を取りまとめ、自己評価表を作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者の家族会、区長、福寿会会長(敬老会)、町職員、オーナー、管理者などで構成され、ホームからは状況報告などを行い、出席者からの質問や意見、要望を受け入れ、双方向的会議になるように工夫している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、町職員も出席し情報を提供してもらったり、町の相談員の派遣を依頼し、サービスの質の向上を目指し、利用者やホームの相談に乗ってもらったりしている。		町の担当窓口職員とホームの実情やケアサービスの取り組みなどを共有し、町職員の研修の場として活用してもらい、課題解決に向けて、町と協働していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会との話し合いの中で、対象者や利用希望者に対応できるようにし、パンフレットや資料を揃え、分かりやすく説明できるように配慮している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は毎月一回の支払いのため必ず来訪するシステムになっていて、その時に職員が利用者の心身の状態やホームでの暮らしぶり等を報告している。また、緊急時や状態変化などの場合は電話等で連絡し、家族と相談しながら対処している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の後、家族会を開催し、利用者、家族からの意見や要望を聞き入れ運営に反映できるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は現在まで二人である。職員同士が利用者の情報を共有し、連携してサービスを行い、引き継ぎ等は馴染みの関係を作りながら実践出来るように努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	運営推進会議の中で、町職員から人権等について話してもらっている。職員の仕事が、スムーズに流れやすいような環境づくりのために休憩時間や休憩室の確保に取り組んでいる。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	オーナーや管理者は、常に職員に、利用者一人ひとりの尊厳を守り、日々の生活を円滑に送れるように指導している。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会に職員が交代で参加し、参加できなかった職員にはミーティング時に参加者からの報告を聞き、介護サービスの質の向上に役立てている。また、職員は働きながら学ぶことを習慣づけ、技術や知識を身につける工夫をしている。		職員の研修は新人研修を含め、年間計画をたて、習熟度に応じ、計画的に行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みやこ町グループホーム協議会に加盟し、技術や情報を交換している。また、介護支援専門員連絡協議会に参加し、介護サービスの質の向上を図っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験入居の利用等で本人や家族から要望を聞き、暫定的ケアプランを作成し、馴染みながらの入居が出来る工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が今まで経験された様々なことを活用し、家事、農業、包丁とぎ、習字、俳句など日々の生活の場面に活かされるようにしている。また、職員と利用者は「共に暮らし、学び、支え合う」関係を築き、家族の一員として毎日を過ごしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は比較的軽度の方が多いので、職員は利用者の希望や意向を把握し、会議で職員全員に周知し、共有を図りながら介護サービスに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの個別の介護計画を本人の意向や家族の意見を反映し、管理者や職員は、担当者会議で協議し作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に見直し、状態変化があった場合はその都度利用者、家族と相談し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に引き合い、必要な支援や多機能性を活かし実施している。特に4人の看護師が健康面の充実を計り多機能性を活かしている。保育園児との食事会等を企画し、要望に対して柔軟に対応できるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と提携し、往診してもらい、緊急時の対応など24時間体制が確立されつつある。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を作成し、看取りの支援を充実させ、医師、家族と常に話し合いながら協力出来る体制がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳と権利を守り、人前での介助には特別な配慮がされている。また、個人情報の取り扱いのマニュアルを整備し、これを遵守している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムや本人の希望を大切に、その人らしい暮らしが出来るように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや嫌いな物の一覧表を作成し、管理栄養士が一覧表を基に料理を作り、健康面にも十分に配慮されている。また、全員が介助なしの食事のため、職員と会話しながらの楽しい食事となっている。		
26	57	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望の時間に添えるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、日々の暮らしの中で楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課の散歩や畑仕事、買い物、外食、本人の希望による外出など、戸外に出かけられるような支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、対応している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今秋に計画している防災訓練には地域の方の参加を予定し、避難訓練を実施する予定である。		夜間を想定した避難訓練の実施と、緊急時の非常食、水、毛布等の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に1ヶ月分のカロリー計算をしたメニューを作成してもらい、利用者の健康状態に合わせた食事や水分の補給に工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり	リビングルームは広く、開放的である。居間に続くウッドデッキでは、気候の良い日にはお茶やおやつをいただく場所となっている。廊下の壁に掛けられた小学生、保育園児と利用者の記念写真は、みんなの顔が生き生きと楽しそう、思わず微笑みたくなる素敵な写真である。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、家族も一緒に泊まれるスペースがあり、利用者が持ち込んだ馴染みの道具で、居心地よい空間で、プライバシーも保たれている。		